

弥生3月、今年もカシミア受注会が始まりました。  
最新の編み機から編み出される柄編みに、乞うご期待。

年が明けて咲き出したロウバイがとっても良い香りでした。今は沈丁花がほのかに香っています。冬枯れの寒さの中でいち早く咲く福寿草、菜の花、サンシュユ、ミモザ、土佐水木。可憐な春一番の花達はどっしり黄色が多いんですね？

ガラんとした部屋に編機やリングマシンやミシン等が入りだんだんと設備も充実してきた山梨工場。陣容も石原と今村が参加し。人の動きと編みだての音で工場らしくなってきました。

ここから世界に誇れるUTOならではのこだわりの物作りを発信します

UTOニット便りのバックナンバーは当社ホームページ、[uto-knit.com](http://uto-knit.com) でご覧になれます。

### 【自社工場発進】

「人材、資金、場所、準備万端でスタート」なんて言っていたら10年待っても不可能でした。「納得のいく物作りをする」という強い思いと、佐野工場長との出会いという切っ掛けと、生来の無鉄砲が山梨工場を実現させるというラッキーを呼び込めたようです。

無い無い尽くしてスタートした工場も、石原が加わり、今度はこの道40年の超ベテランの今村が参加してくれました。熟練の経験者はUTOならず日本の業界の宝だと思えます。

### 【いよいよ春夏現物開始】

この春からシルクコットンなどの素材で春夏物を開始します。まずは現物を4月頃から予定しています。

今までは一年中カシミアを製造していないと生産が間に合わず、春夏素材はゴメンナサイという状況でしたが自社工場稼働でやっと春夏物を手がけられる迄になりました。カシミア受注会などと同時に販売していただいたり、或いは単独の『UTOハイクオリティニット春夏フェア』として現物販売会などをお願いします。

### 【日本大賞世界ラン展】

東京ドームで開催されるこのラン展も今年で11回目。毎年欠かさず出かけていますが、爛漫のランを見ると『ああ春が来た』気分が浮き立ちます。会場でカシミアを着ている人には商売柄つい目が行ってしまいます。記念に買い求めたセロジネというランの小鉢は1200円。挿絵にするのに3日もかかってしまいました。



セロジネ

### ドット柄丸首セーター

No. 12701 ¥65,000.-



3色の可愛いドット柄がインターシャジャガードで前身、後ろ身、両袖いっばいに散りばめられたとっても贅沢なセーターです。

### アーガイルハイネック

No. 12700 ¥65,000.-



胸に大柄なアーガイル、後のネック下に小さなアーガイル、両袖にも可愛いアーガイルをインターシャで編みこんだ逸品です。同じイメージのインターシャ柄のカーディガンと組み合わせて豪華なアンサンブルに。

### リブ衿カーデ

No. 1307 ¥48,000.-



肩にかかるほど大きなリブの広衿とスキリの胸の開きがとってもエレガント。

【南青山界限】 UTOはこんな街から発信しています  
時代の先取り建築からエコ感覚の先取りへ

### 同潤会アパートから表参道ヒルズへ

2月11日土曜日、青山表参道に表参道ヒルズがオープンしました。  
安藤忠雄の設計で、250メートルもある長い建物は彼の特徴である金属とガラスで直線多用した近代的なデザインです。都心の建物のわりに低層に抑えたのは有名なケヤキ並木より高くないようにと言う配慮だそうです。内部は6層の吹き抜けになってならかなスロープに沿った商店街という想定です。お店を左に見ながらぶらぶらとワインドショッピングしているといつの間にか結構歩いています。

家主が六本木ヒルズと同じ裕福な森ビルというところもあって真新しさも活発な宣伝に誘われて今でもかなりの人出です。

元々ここには同潤会アパートと言うふつとるしいアパートがありました。高の絡まる、今にも倒れそうな建物の狭い住宅をお店に改造し、個人で輸入した雑貨や自分で手作りしたような服やアクセサリーを売ったり、水彩画の展示会があったり、素人っぽい

お店が多く緑日のお店を覗く楽しさがありました。(往時の建物が一棟再建されています)

1923年(大正11)9月11日11時58分、ほぼ正午に東京を中心に大地震が発生し、死者約6万人、行方不明約1万1千人という関東大震災が起こりました。

地震発生の時、カミさんの父は小学生で、東京の中野で道を歩いていると、地震の揺れで歩けなくなって道端に伏せたという話を聞いたことがありますが、もうこの地震を体感した人は殆ど亡くなってしまいました。阪神淡路の震災や雲仙普賢岳の噴火を思い起こしても自然の驚異には人間はただただ恐れ慄くだけの哀れな存在と自覚します。

この関東大震災の震災義捐金に1千万円を支出して財団法人同潤会が設立され、震災を教訓に耐震耐火性の高い鉄筋コンクリート造りの公共のアパートを造ったのが以前ここにあった同潤会青山アパートだったんです。

青山アパートは3階建て10棟138室。80年前住宅に鉄筋コンクリートを使用するのは画期的で、電気もようやく各家庭に普及し始めたばかりの大正末期から昭和初期に、台所に水道、電気、ガス完備、便所も水洗の超モダン住宅で憧れの的。大変な人気で大正15年9月貸付開始したときの申し込み倍率は7.6倍だったそうです。この同潤会のアパートがその後の集合住宅やマンションの手本になり、昭和初期にアパートメントブームが起き、その後の団地スタイルのモデルになったそうです。

当時のこの住所は豊多摩郡千駄ヶ谷大字稲田。現在の渋谷区神宮前は、80年前は豊玉郡だったんですね。その頃の東京の中心は上野や浅草など今の下町。ここは都心のはずれ、と言うより東京の外のような感覚だったんでしょうね。



